

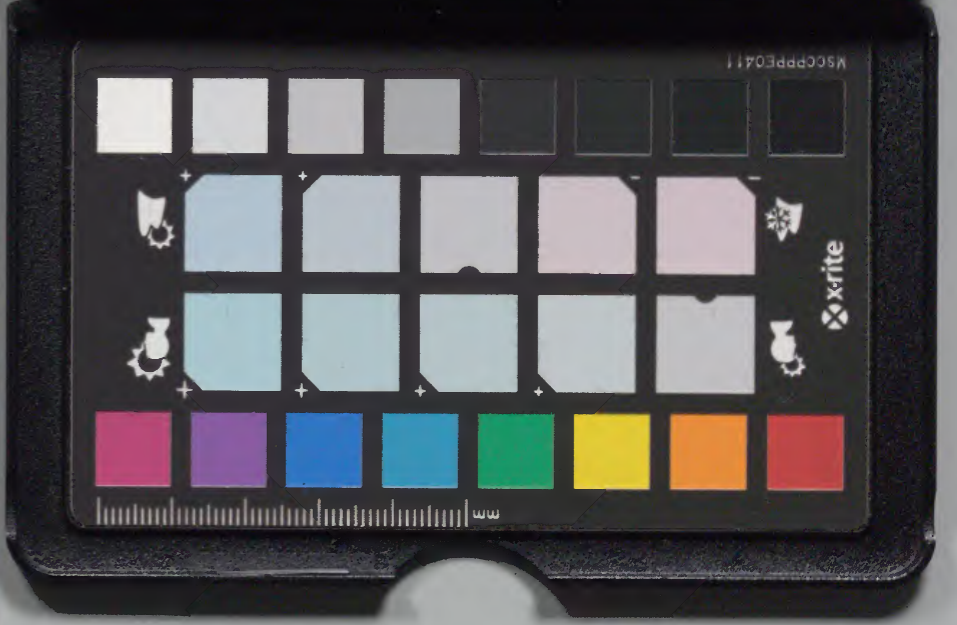
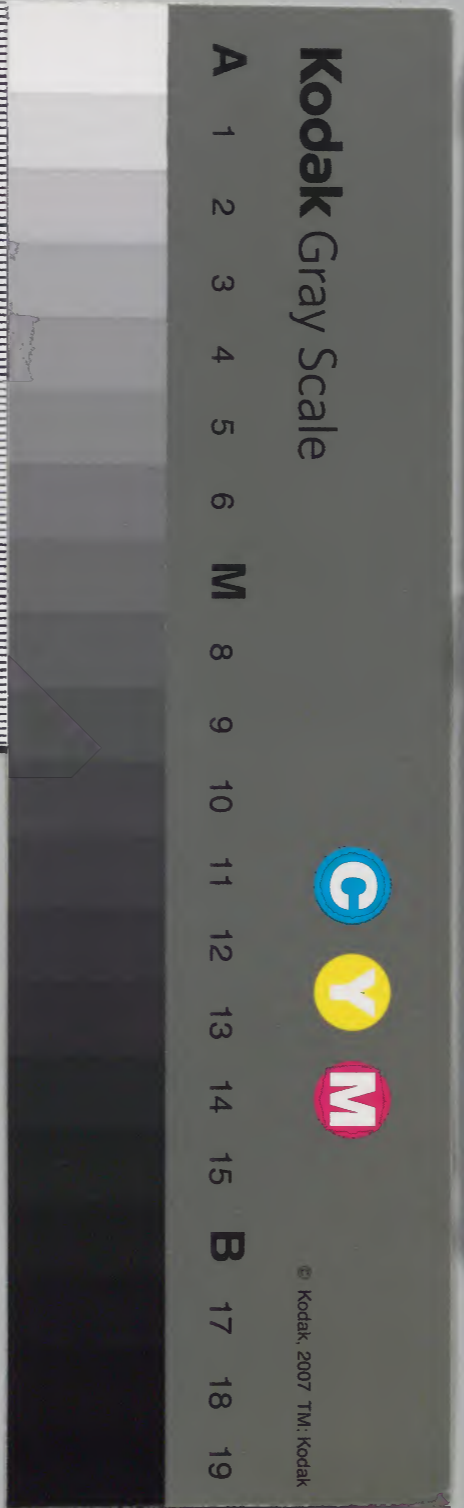
真加訓

内閣文庫		内
架	冊	第
一〇	五	書
冊	冊	類
二七	二八	共
冊	冊	

和書門	
架	冊
五	一
冊	冊
二七	二八
冊	冊

内閣文庫	
番號	和 27218
冊數	5 ( 1 )
函號	190 182

190-182





師

眞加訓序

書經洪範の篇目。五福六極と云ふ有り。

五福は五つに吉事。六極は六つに凶事也。

天道よりいへば吉乃五福よりいへば凶を記し給

ひ多。凶乃六極ハ。今日我々五福一

つとく火いりりるい。あつていりる也。

影の形よあつていりるい。あつていりる也。

其身正しくれば。邪正しく。其身

明治二十五年

世



邪よしまをいばひ。邪よしまなり。ほくくうせい。つとく  
 ひいまひ。ひいくくをばくくひいまひ。つとく  
 ぐく幸かしし。其し身みハいじじなり。邪ひ  
 天道てんたうなるも。おらハし。終しうなり。ひいれれを天  
 道たうなり。人じん作さくをもつく。毛もう頭かうくく終し  
 くのめわらんん。裁さいよのハ培かこくめのハ。  
 覆くわくとつも是なり。草そう本ほんの根ハよく  
 土つち瓜うりい直くまるあるのハ晝夜

且且天地てんちの生氣せいくく。雨う露ろのくこ加ハ  
 了了。枝えだのい葉えはる。根ねハ土のくこく。  
 夫そ者しやハは。天地てんち乃すなはち生氣せいくく。雨う露ろ  
 乃すなはち通じはりて。覆くわくをもつく也。  
 孔子こうしの人乃すなはち直なりの也。其その直ちよくを  
 終しうよりゆくくハ忽をしれ死もか  
 苦くの事なり也。一ひと日にも生を拵くしるハ。  
 幸さいふて。まるくしる也。つとくのなりと



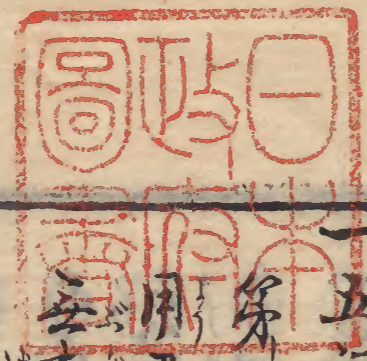
わまはる。苗分生を括る。ついで。あふ  
 かりもの也。進付ををん死とす。賞ハ  
 元本。天れ加護して。予も。金銀。四計ハ  
 我々好む。天よえ。か。お。かり。現  
 用。は。ら。ん。ど。自然と中。打。ま。あ。り。  
 是。公。冥。加。つ。書。経。い。是。と。陰。陽。と  
 つ。の。あ。と。よ。く。け。り。あ。る。天。命。と。知  
 とも。い。ぞ。一。毛。頼。る。も。あ。ら。ざ。れ。た。

凡夫の人の用して。耳少く。ま。あ。り。迷  
 々。み。く。冥。加。よ。く。あ。ら。な。が。る。真  
 加。よ。く。ま。あ。り。あ。ら。な。と。善。い  
 かり。て。よ。く。悪。は。な。り。て。あ。ま。し。い。事。と。  
 知。ら。ざ。り。ほ。そ。い。あ。け。ま。た。生。質。乃。氣。を。  
 飲。食。色。の。こ。ら。れ。欲。し。  
 あ。ら。な。い。あ。ら。な。い。事。也。其。後。と。示。す。  
 事。也。甲。乙。あ。ら。な。い。真。加。り。訓。を



立事記との也。上王公より下庶人まで  
 いづれも眞加よりなり。人作して一つ  
 もゆきふあはれ。大事にして。字  
 へ表は也

享保九歳仲冬上旬豊後岡佳輔仁  
 堂關一樂翁八十一歳記之



眞加訓卷之一

一五福の第一壽命。これいひのられまふなり。  
 第二富。是は天祿のまかりて。不飢不寒財  
 用なり。第三康寧。これ  
 安穩して災難憂苦のたれをいふ。第  
 四徳好徳。これいひ道徳とあり。義理をわ  
 かり。第五考終命。これいひ天より受得  
 る。眞加よりなり。此の五つをいひ。眞加  
 の五つなり。いづれも福といふ。天  
 より。肝心脾肺腎の五臓。仁義禮智信乃



五常の末とく。此五つは福も同づくさうもまた  
 給ふ事なかり。生れ後加増とのよわげ人  
 ありていさごと。分際一とい。餘も不足を  
 かねた也。俗に天道人よりさすや。天乃大  
 徳とて。病難貧苦めく。死果るや。何れ小  
 めてい給ふべきや。多の分より。たうたうて  
 欠ありいて。六極とかな也。六極といひ。第一  
 凶短折。これい壽命のさうたのさう也。若死を  
 いひ。愛死ととり。第二貪。これい富の  
 うし也。貪の字は。貝をいふとく。て。をいひ

あり。富の内乃をうく。一銭とくれば。一銭が  
 乃貪なり。十銭とくれば。十銭が貪也。ほ  
 る。大分の。金銀財寶とや。それつらある。冥加  
 の富を。けいといふ。それや。跡がる。か  
 らのつら。跡の富が。ひさや。たうたう。か  
 たり。それい人。施し。あつら物を。た  
 ひく。又つら。利得。つら。は  
 人を。たう。い。つら。つら  
 て。人。つら。つら。つら。つら  
 減。人。つら。つら。つら。つら



とへば。わづ富も十分。人の富も十分。ちから人  
 の富を二分。わづ方へ取てをば。その二分。わ  
 づ方よ餘りゆへ。とわれても。わづ方よ。わづ物よ。さ  
 ぞ。恃而入貨たりゆへ。富か入されば。そそ。かそ  
 くらとくら。一度の恃而出也。又わづ十分の富  
 の内を。二分。人よあ。こま。わづ方よ。二分。乃  
 不足。わづゆへ。そのわづ方よ。天よりた。て  
 くらとくら。ゆへ。わづくらとくら。富あり也。とらねど  
 取。ゆへ。き物をとらねば。十双。倍。て。天より取。ゆ  
 くらと。取。ゆへ。そのものを。先人よあ。こま。十双。倍

して。天より取。ゆへ。くらと。是。は。必然  
 け。ま。て。そ。ら。ま。事。る。れ。も。元。夫。の。あ。ま。は  
 くら。富。か。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。と。事。成。た。ら。ぬ。縁。中。が。て  
 取。ゆ。さ。ら。ま。事。成。た。ら。ぬ。先。取。て。い。い。笑。止  
 千万。ち。ら。ま。事。る。れ。も。その。人。れ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。と。事  
 され。ば。貧。窮。が。す。た。ち。ち。ゆ。外。よ。ら。ま。為。べ。事  
 中。の。み。一。第。三。疾。と。憂。ハ。康。寧。の。及。た。り。疾  
 ハ。病。氣。と。彼。此。が。つ。み。身。体。は。安。う。さ。ら。ぬ  
 憂。ハ。さ。ゆ。ぐ。の。災。難。よ。あ。い。家。内。不。和。め。て  
 かの。寧。く。さ。ら。ぬ。也。天。より。け。ら。ま。事。成。た。ら。ぬ。實。加



の康寧やすみ也。うじくゆへ疾憂やまの極きまをうくる事  
 あり。是は何なる。氣きの毒どく千万。ちうちうされ  
 ども。ワグムわぐむちうちうと来きるれば。天てんをも人も  
 うじくべきやうなり。第四だいよ悪あく。是は悠好德ゆうこうとくの  
 反はんなり。學問がくもんをまじひ。道徳だうとくをいひ。仁義にぎを  
 ちうちう。賢けんと福ふくをも。佞ねいをおとし。剛かう悪あく公こうを  
 身みを亡なげし。家けをうじしなり。是もか真加まかよ。そか  
 りのあり徳とくを好このむ。ゆるちう。これとワグムわぐむ。  
 悪あくの極きまとうくる也。第五だいご弱じやく。是は考終命かうしゅうめいの  
 及およちり。氣き体たい柔弱じやくじやくして器量きりやうなく。道徳だうとく仁

義ぎ也。終しゆう事じとは知ちあが。ほまほま行ぎやうことあさび。  
 氣き隨ずい墮だ落らくめて。真加まかの天命てんめいと。げくと事  
 をず。そむもくはげれちうづる也。大車だいしや乃  
 福ふくを。さづかりながる。天道てんたうれ真加まかよりひれたる。  
 極きまあり。あさび。是非ぜいひもあれた義ぎ也。氣きのゆが  
 ひつひ。天てんの咎とがもあさび。ワグム身みおゆひゆ  
 かり。ひげれのちう下げい。天てんの私ひそもあさび。打うちち  
 の強弱きやうじやくより也。かさくものををるは。  
 ゆがちくあゆちう。ちう終しゆうむ。天てんよと人ひとも  
 外ほかはたし。是れ我われちうと事こと也







虫生と。それより瘰癧中氣の症也。女色  
 病氣短命の本と云ふ也。色といふは。女色  
 男色をわづらひて来りたり。尤本妻の更  
 方と云ふ事なれども。是ハ常也。と云ふ  
 べし。ゆへに中氣の病も。ゆへに色といふ  
 妾や。腰を痛む。いふに。女色。あまらうと云ふ。兒若  
 衆と云ふ。晝夜不養生。種もつさ  
 て。乱酒厚味を嗜む。陽事をねむ。  
 真陰を損つや。眞加一と云ふ。餘計な事  
 壽命と。腎の内は。はたは。愚痴のいふ

かり。其期よのぞんで。六味丸八味丸四花  
 患門乃。多と用ぬべき。死亡めつる。父母  
 のなむ。妻子のむ。言語のいふ。一  
 命なり。その人のわづらひ。何れ  
 益あるや。眞加乃。は。貪欲とい  
 は。む。欲といふ。欲といふ。人  
 情乃。ま。男。女。飢。多。合。と。飲  
 一。渴。と。水。を。飲。寒。時。衣。と。飲。は  
 め。ま。ま。か。ふ。か。り。ね。と。衣。合。は  
 一。を。好。む。と。い。ふ。あ。く。ま











別中古の末は百年と上壽と八十と中壽  
 と六十を下壽とす。是皆悠好徳の天乃  
 授とよほりて壽命と得るものなり。又  
 長命といふ。生てはつきよのあり。五体不  
 具ならり。悪もして人乃害なかり。くみふ  
 くすれ。死しるより。若かりあり。道德仁義  
 を。まじひこのまじひ。壽命ハ生れ得られ。た。  
 天罰人罰を得て。おろかるゆゑ也。善則  
 得る不善則失るといふこれなり。まじひを  
 わづかしくと事也

一富と五福の第二とん。多しん四天下と得るん  
 ばそ。乱運しあひ。世間静謐なり。火雖水災  
 大風大旱多しめ。凶年にあひ。飢饉疫癘を  
 して。安穏なり。富有りといふ。是皆分  
 たり。悠好徳乃其加よ。うひもりゆへなり。惣  
 べて天より。くん授與しん。福のほり。不  
 飢不寒を極す。米と鹽と水以外。云  
 用乃奢なり。米と鹽や。水を。人食としん。  
 脾胃と實し。皮膚田満して。筋骨すなり







民乃物を貪取る人ハ哀じよの千万人の  
 千万人れをげさうれじ。悲入るをさういふも乃  
 かのほみか上一人と宰相の身よ歸さるも  
 なり。堯帝の舜よ告るも四海困窮さば  
 天祿永続とのさぬ。峻宇彫牆此よ一つも  
 わらば亡ざらんはなりともあり。茅茨まらば採  
 椽けつるもあり。いんとして奢と。志免  
 さばといふ事さす。是皆冥加の富瓜つら  
 くらして天の罰を蒙り終るも也  
 一 康寧を。五福の第一こと長生一富貴

かればとて。疾病災難等の悪事あり。安穩  
 静謐なれは。憂苦さるん生くけしを。  
 富貴うたれものあり。福といひて。悠好徳乃  
 けさうものなり。志られば善瓜この。徳瓜  
 福といふ人をさるもあはれむ。康寧乃冥  
 加したる也  
 一 悠好徳を。五福の第四番こと長生一富  
 貴は。この好徳乃冥加と。全く守り行ふ  
 べかり。仁義礼智孝弟忠信を。大事と  
 して。善をたし。悪をなす。結核を



真加が巻一  
一入不佞をくらうく。あはれをすくうべし。生れ  
つと短氣あやせ。うりはく。欲あくままみ  
わつて。意地をこて。人を祿をこそのこ。人乃  
非をあげて。悪口ぬひ。人お害よかる悪人  
あつものかり。天道よえんかされて。中ぐく死  
とらう。子孫をくまはらう。真加よはくも  
の也。五分別ゆり。生れつと悪性されば。笑  
止し。あやう。うりくま。ま。かり。人よき  
このをば。あさけとけ。とけい。あやう。

悪ものをば。あやう。あはれをすくうべし。生れ  
つと短氣あやせ。うりはく。欲あくままみ  
わつて。意地をこて。人を祿をこそのこ。人乃  
非をあげて。悪口ぬひ。人お害よかる悪人  
あつものかり。天道よえんかされて。中ぐく死  
とらう。子孫をくまはらう。真加よはくも  
の也。五分別ゆり。生れつと悪性されば。笑  
止し。あやう。うりくま。ま。かり。人よき  
このをば。あさけとけ。とけい。あやう。



徳をこのひとりの肝要の事なり。悪も  
 善も愛も。凶も吉も愛も。是れ也  
 一考終命を。五福の第五番は。是れ天  
 道なり。うも得る。真加の。長生と富と。康  
 寧と。悠好徳と。四の物を。ひつとる。ひと  
 全くはくして。老老と。何の苦痛もな  
 く。枯木の風。そを吹く。率と。つと  
 は。天命を。はくして。五の福を。そと。真加  
 を。よく。得る。つと。や。つと。ま。その。也。是れ。過  
 ぎる。吉慶。は。た。た。也

一生附る。真加。十を。い。一生。十。と。よ。ん。こ  
 さ。ふ。ち。り。わ。く。して。十。の。内。の。る。る。ま。り。の  
 ち。ら。ま。地。なり。物。の。成。と。ふ。事。ハ。針。外  
 う。と。な。づ。れ。く。ぐ。る。事。ハ。や。と。草。本  
 と。う。の。物。は。け。ぬ。さ。ぬ。寸。尺。あり。竹。の。子  
 たり。も。一。尺。や。二。尺。の。間。の。さ。く。さ。く。後。の  
 雲。を。と。と。く。わ。く。べ。け。き。も。す。れ。つ。き。る  
 ち。け。あり。う。種。より。よ。は。一。寸。と。の。い。ど。人  
 と。幼。少。なる。の。お。と。の。い。後。と。天  
 り。と。さ。く。さ。く。の。い。か。どの。い。後



は。一すものいふ。人乃年齢福祿壽能み  
 かるのさけあり。生得そのら。形そのの外高  
 位高官多にのなるそのあり。是も生得の  
 冥加の内なり。生れつゝその分を。はくし  
 うりつゝそのなり。大舜の農民の子にて  
 天子れ位よのなるも終ふ。是も冥加のうられ  
 命なり。子孫もに大孝をけくし。大善行  
 なされど。生得の福も。得るふまうけき  
 とも。福よりよ好徳を。多くら終ふゆへなり。  
 外のもの。又舜れおく志さればとて。みまく

天子に。かるんさふりあは。樂結の天子の位  
 了。生れつゝその人されも。大虐大要公。い  
 たされつれ。きすらも此亡び失つれ。是  
 をもつてそれ。冥加一といを。はくして。上  
 のなり。いふ。成がった事也。下に。どうか  
 つい。やとれた事なり。志るも。たは。いふ。大  
 善行。好徳の福を。たもらて。そかると  
 くる。壽と富を。とらと。づさぬや。めい  
 づ。大體のを得。その日。だつ。と。方  
 かり也。前よ。いぶ。飲食色。乃。三欲。貪



眞加引卷一

瞋痴乃二毒也。あつてされて。病氣よなるを  
早せとらる。行迹あつて身よけつらり。天  
命のづれづらり。善も悪もはまひハ吉凶  
らあつていふたもの也。うのうら一寸善とせし  
ば一寸のび。一寸悪とせし。一寸減也。あつら  
しき事也。人ハ元素善なるらつたもの也。  
よりく善をばつてはつた縁ざれば。あつてはた  
悪のあつてつた人少ら。少ら悪も。わざつて  
をうらつた也。吉凶のあつてはつた縁と。一寸成  
とも。善をうて樂とせし。善とあつてらる

か。心くあつてま事いなり。悪はつてい悪  
をたつてらる。氣味あつてつた縁と。縁とを  
のよりぬものなり。あつても欲よあつて  
天罰のつらり。縁とをばつて。縁とをばつて。  
あつてとゆは。利得をうらふ事の。恨ぶ  
ゆへ。あつてつた縁と。あつてつた縁と。刑罰  
らあつて。眞加の内場をほつて。眞加の外  
をばつて。あつてつた縁と。あつてつた縁と。  
ばあつてつた縁と。あつてつた縁と。あつてつた縁と。  
と。あつてつた縁と。あつてつた縁と。あつてつた縁と。

眞加引卷一

十八







疾壽不貳。身と修て候とつし是なり。それ  
 もつ身をわとめど。善はなさばして。天は  
 ほうをくかひ。何の益あるや。耕耨も  
 怠りて。穀の實のつを。待がぶ。多し  
 くらざる。はなとんは。實のつは  
 天はほうせり。凡情の欲かゆ。實のつ  
 ひとあり。善をく。善草  
 ぎら。又地はす。種  
 とく。はな。あきを  
 らん。

申た。梅乃實は  
 桃の生。瓜の。茄子は。天  
 命を。凡  
 命を。善を。悪を。あ  
 かり  
 一わの。身は。鹽と水。ふて。のら  
 中。かふ。一。菜  
 ば。結。天  
 天禄乃冥加を。



情をうつりうて。明てくわくも。善悪を  
 根とつて。どつ。けのどつ。き。あふ。べ。つ。り  
 は。う。ろ。の。も。の。別して。思ふ。も。存。だ。ん。怪。む  
 り。せ。う。う。わ。り。非。常。の。功。を。賞。し。非。類。乃  
 徳。を。あ。げ。賞。と。せ。ん。ぐ。若。公。と。う。ふ。ん。は。一  
 小。思。ふ。や。し。感。念。と。う。の。也

